

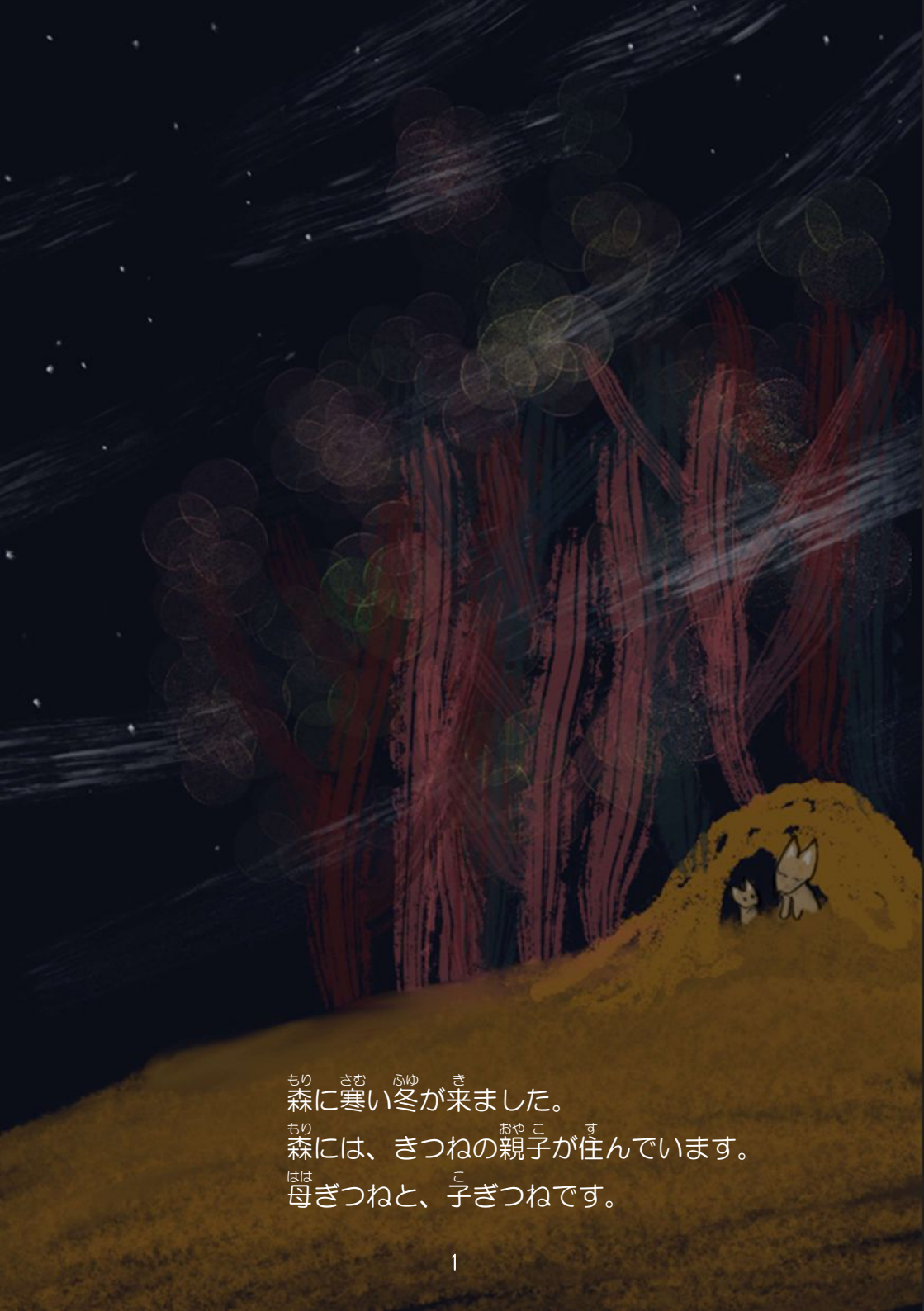
LEVEL

3

て か 手ぶくろを買いに



げんさく にい み なんきち
原作：新美南吉



もり さむ ふゆ き
森に寒い冬が来ました。

もり おや こ す
森には、きつねの親子が住んでいます。

はは こ
母ぎつねと、子ぎつねです。



ある朝、子ぎつねが外へ出ようとして、
「おかあさん、目に何かが入った！痛い痛い！」
と大きな声を出しました。

母ぎつねはびっくりして、子ぎつねの目を見ましたが、
何も入っていません。


母ぎつねが外に出てみると、外は真っ白です。

昨日の夜、雪がたくさん降ったのです。

雪を初めて見た子ぎつねは、雪が、

お日様の光でキラキラ光っているのを見て、


「目に何かが入った！」と間違えたのでしょうか。



こ 子ぎつねは 外へ遊びに行きました。

やわらかい雪の上を走ると、雪がたくさん飛んで、
小さい虹が出ました。

うし 後ろで「ざーっ」という
おお おと 大きい音がしました。



こ 子ぎつねはびっくりして
と 飛び上がりました。

「何だろう？」と思って
うし 後ろを見ると、

それは木の枝から落ちた雪でした。

「おかあさん、おててが^{つめ}冷たい。おててがちんちんする」
母^{はは}ぎつねのところに帰^{かえ}った子^こぎつねが^い言いました。
子^こぎつねの手は雪^{て ゆき}で冷^{つめ}たくなって、赤^{あか}くなっていました。
すごく痛^{いた}そうです。

母^{はは}ぎつねは、

「かわいそうに…。
町^{まち}へ出^でて、この子^こに手^てぶくろを
買^かってあげよう」
と思^{おも}いました。



よる
夜になりました。

きつねのおやこもりで、あるい
親子は森を出て、歩いて行きました。

ひろ
広いところに出ました。

とおみこ
遠くを見た子ぎつねが、

「あっ、あんなひくいところにおほし
「あ、あんな低いところにお星さまがいる！」と言いました。

ほしまちあ
「あれは星じゃなくて、町の明かりなんだよ」と

ははおし
母ぎつねは教えてあげました。



その時、母ぎつねは急に思い出しました。



昔、友だちのきつねと一緒に、
人間のうちのアヒルをとろうとして、
見つかってしまったことがありました。

「こらーっ！！」と
人間はとても大きい声を出して、
追いかけてきました。

母ぎつねは、その時の人間の顔と声が
すごく怖かったのです。

はは 母ぎつねは^{あし}足を^と止めて、
「^{おも}どうしよう・・・」^{おも}と思いました。



でも、^こ子ぎつねの^{あか}赤くて
^{いた}痛^てそうな^み手を見ると、
やっぱり^て手ぶくろを^か買ってあげたい
^{おも}と思いました。

「^{ちい}小さい^こ子ぎつねが^い行けば、
^{だいじょうぶ}大丈夫かもしれない・・・」と
^{はは}母ぎつねは^{かんが}考えました。





「お前、^{まえ}手^てを出^だして」
^{はは}母^{はは}ぎ^ぎつ^つね^ねはそう^い言^いう^うと、
子^こぎ^ぎつ^つね^ねの^{ひだり}左^て手^てを、
自^じ分^{ぶん}の手^てでや^ささ^さしく触^{さわ}り^りま^まし^した。
す^する^ると、子^こぎ^ぎつ^つね^ねの手^てが
か^かわ^わい^いい人^{にん}間^{げん}の手^てに^かわ^わり^りま^まし^した。

「わ^{へん}〜、変^てな手^てだ^だね」
子^こぎ^ぎつ^つね^ねは、そ^その^て手^てを^み見^いて^い言^いいま^まし^した。
「こ^{にん}れ^{げん}は人^{にん}間^{げん}の手^てよ」
と^{はは}母^{はは}ぎ^ぎつ^つね^ねが^い言^いいま^まし^した。

「^{まち}町^{まち}にはた^{にん}く^{げん}さん人^{にん}間^{げん}の^{うち}う^ちち^ちが^ある^あから、
ぼ^えう^えし^しの^え絵^えが^ある^あ店^{みせ}を^{さが}探^{さが}す^すん^んだ^だよ。
み^みつ^つけ^けた^たら、そ^みの^み店^{みせ}の^どド^あア^あを^て手^てで“^とト^{んとん}”と^{たた}叩^{たた}いて、
“こ^いん^いば^ばん^んは”^いて^い言^いいな^なさい。
す^する^ると、人^{にん}間^{げん}が^どド^あア^あを^{すこ}少^あし^あ開^あけ^ける^るから、
そ^どの^あド^あアの^{あい}間^だか^からこ^{にん}の^{げん}人^{にん}間^{げん}の^て手^てを^だ出^だして、
“こ^ての^て手^てに^いち^いょう^いど^いい^い手^てぶ^ぶく^くろ^ろを^くく^ださ^さい”^いて^い言^いう^うん^んだ^だよ、
わ^わか^かった^たね」
^{はは}母^{はは}ぎ^ぎつ^つね^ねは^いそ^こう^こ言^かん^ねて、子^こぎ^ぎつ^つね^ねに^かね^{ふた}お^{わた}金^{わた}を^{ふた}2^{ふた}つ^{ふた}渡^{わた}し^しま^まし^した。

「絶対^{ぜったい}にきつねの手^てを出^だしてはいけないよ」

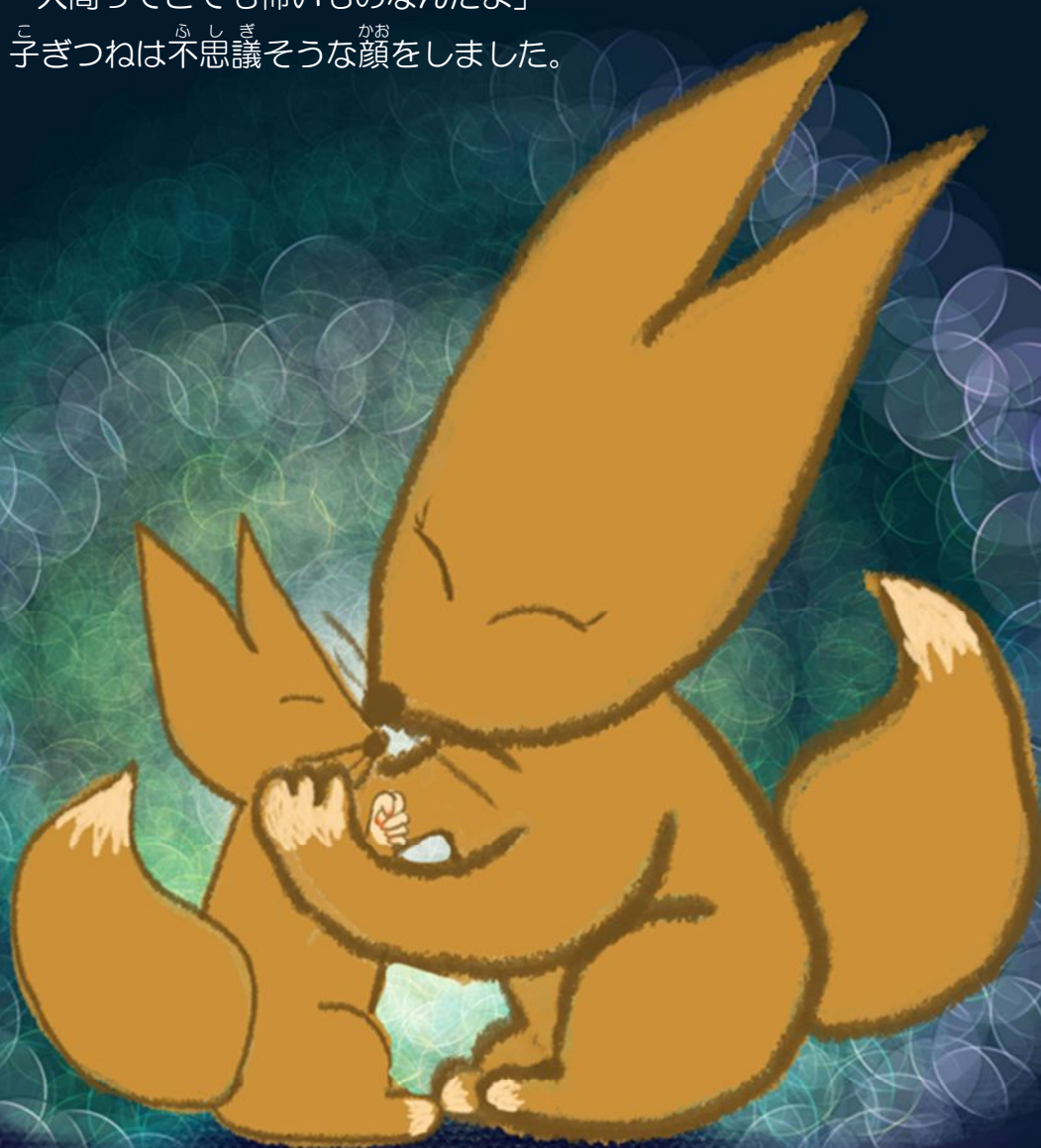
「どうして？」と子ぎつね^こは聞^ききました。

「人間^{にんげん}は、きつねには手^てぶくろを売^うってくれないんだよ。

きつねを見^みたら、大^{おお}きい声^{こえ}を出^だして、追^おいかけてくるんだよ。

人間^{にんげん}ってとても怖^{こわ}いものなんだよ」

子ぎつね^こは不思議^{ふしぎ}そうな顔^{かお}をしました。





こ ぎつねは まち の ほうへ 歩いて 行きました。

はじ めは 1 つ だった 明かりは、

ふた 2 つ になって、 みつ 3 つ になって、

さいご 最後は 10 になりました。

まち の 明かりは、 きいろ や あお や あか があって、

「おほし さまと おなじ だな」

こ と ぎつねは おもいました。

もう いえ の 戸 は みんな しまっていて

ひと は だれ も ある 歩いて いません。

こ ぎつねは ぼうし 屋 を 探しました。





やっとぼうし^{やみ}屋^みが見つかりました。
黒くて大きな^{くろ}ぼうし^{おお}の^え絵^{みせ}がついている店です。
こ^こぎつね^はは母^はぎつね^{おし}に教^{おし}えてもら^えったとおり、
戸^とを手^てで^とんとんと^{たた}叩^{たた}きました。

「こんばんは」

とあほそあめまえつよひか
ドアが細く開いて、目の前が強く光りました。

こ
子ぎつねはびっくりして、

きつねの^て手の^だほうを出してしまいました。

そしてそのまま、

「このおててにちょうどいい^て手ぶくろをください！」

と^い言いました。



ぼうし屋は手を見て、

「おや、これはきつねだな」

とすぐわかりました。そして、

「本当にお金を持っているのかな」

と思ったので、

「先にお金をください」

と言いました。

子ぎつねは、今度は人間の手を出して、

お金を渡しました。

ぼうし屋はお金を長い間、

見ていました。

本当のお金のようです。



それからぼうし屋は、小さい子どもの手ぶくろを出して、
子ぎつねに渡しました。

子ぎつねは「ありがとう」と言いました。

「きつねの手を見せてしまったけど、大丈夫だった。

人間は全然怖くないな」
と子ぎつねは思いました。





かえ
帰りに

ある家の窓の下を歩いていると、
声が聞こえてきました。

「ねむれ ねむれ ははのむねに
ねむれ ねむれ ははのてに・・・」



こ
子ぎつねは、これは人間のおかあさんの声だと思いました。

こ
子ぎつねが寝る時、子ぎつねのおかあさんも、

この声と同じように、すごくやさしい声で歌を歌ってくれるからです。

きゅう
急におかあさんにすごく会いたくなって、こ
子ぎつねは走りました。

はは しんぱい こ ま
母ぎつねは心配しながら子ぎつねを待っていました。

こ かえ く
子ぎつねが帰って来ると、

な よろこ
泣きたいぐらい 喜びました。

にひき あか つき した しろ ひか ゆき うえ ある
2匹は、明るい月の下で白く光る雪の上を歩いて

もり かえ い
森へ帰って行きました。





しず　もり　なか　こ　い
静かな森の中のうちで、子ぎつねは言いました。

「おかあさん、人間にんげんは全然ぜんぜん怖くないよ」

「どうして？」母ははぎつねいが言いました。

「ぼく、間違まちがえて本当ほんとうのおててを出だしてしまったの。

でも、ぼうし屋さんは怖くなかったよ。

こんなに暖あたたかい、いい手ぶくろをくれたもの」

「まあ！」母ははぎつねはびっくりしました。

そして、「本当ほんとうに人間にんげんはいいものかしら・・・」と

ちい　こえ　い
小さい声で言いました。

て か 手ぶくろを買いに

はっこう び
発行日

： 2022^{ねん}年1^{がつ}月15^{にち}日

げん さく
原 作

： にい み なんきち
新美 南吉

かん やく え
簡 約 ・ 絵

： いけ だ
池田 あきつ

きょう りよく
協 力

： NPO 多言語多読



NPO多言語多読

tadoku.org